

Sentinel RMS License Manager

ライセンス持ち出し機能ガイド

2021-05

株式会社エリジオン

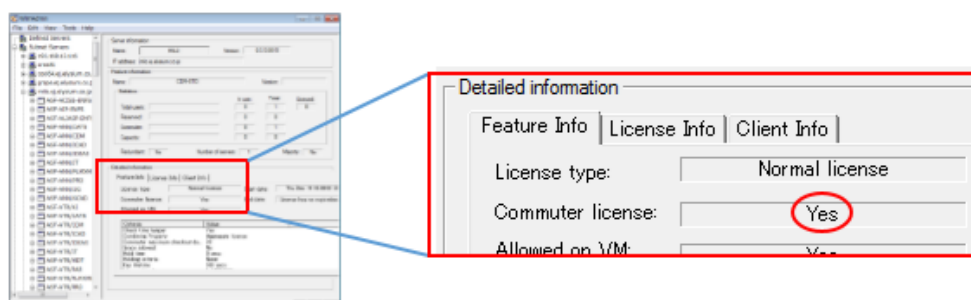
1. ライセンス持ち出し機能 (コンピューターライセンス)

Sentinel RMS License Managerに登録されたライセンスをサーバー端末から取得するためには、サーバー端末とクライアント端末が同一のネットワークに接続されていなければなりません。ライセンス持ち出し機能を用いると、一時的にライセンスをネットワークの外に持ち出すことが可能になります。



2. 前提条件

- 本機能で持ち出せるのは、「Commuter License」の値がYesのライセンスです。Commuter Licenseの値は、WlmAdmin上で各ライセンスのDetailed informationから確認することができます。「Commuter License」の値がNoのライセンスは持ち出すことができません。



- ポート番号は初期設定の5093番を使用する必要があります。
- Sentinel RMS License ManagerとWCommuter.exeなどのツールのバージョンはそろえる必要があります。ツールのバージョンは、実行ファイルのプロパティにある「詳細」タブで確認することができます。

3. ライセンスの持ち出し手順

- ライセンス持ち出し用のツールをクライアント端末に導入します。別途配布している license_admin2 フォルダーを、クライアント端末の任意のフォルダーにコピーします。

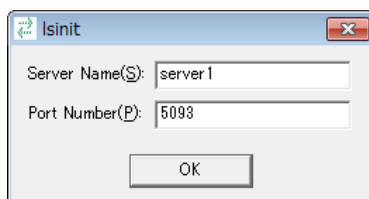


license_admin2 フォルダーは弊社のカスタマーページにて「コンピューターライセンス用ツール」として公開しています。

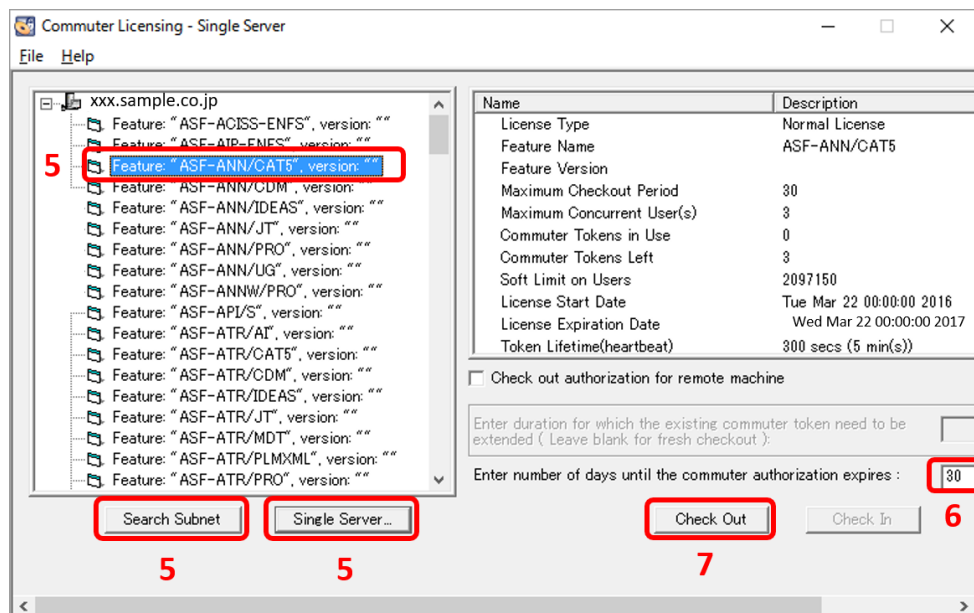


USB 有線 LAN アダプターを利用してライセンスを持ち出した場合、USB 有線 LAN アダプターを外すと持ち出したライセンスが利用できなくなる場合があります。ご注意ください。

2. サーバー端末とクライアント端末がネットワーク接続されていることを確認します。
3. ライセンス持ち出し用の環境設定を行います。license_admin2フォルダーの中にあるlsinit.exeを実行し、「Server Name」にライセンスを持ち出す対象のサーバー端末名を入力します。「Port Number」は5093のままとします。[OK]ボタンをクリックして、「Succeeded to initialize.」というメッセージが表示されれば正常終了です。(本手順は初めてライセンスの持ち出しを行う場合、および既存のライセンスサーバーに新たにライセンスを追加登録した場合に実施してください。毎回実行する必要はありません。)



4. license_admin2フォルダーの中にあるWCommute.exeを実行します。
5. サーバー端末とクライアント端末を同一のサブネットに接続した場合には、[Search Subnet]ボタンをクリックして、ライセンスサーバーの端末名の下に表示されるライセンス一覧から、持ち出したいライセンスを選択します。サーバー端末とクライアント端末を異なるサブネットに接続した場合には、[Single Server]ボタンをクリックし、ライセンスサーバーのコンピューター名もしくはIPアドレスを入力します。その上で、端末名の下に表示されるライセンス一覧から持ち出したいライセンスを選択します。

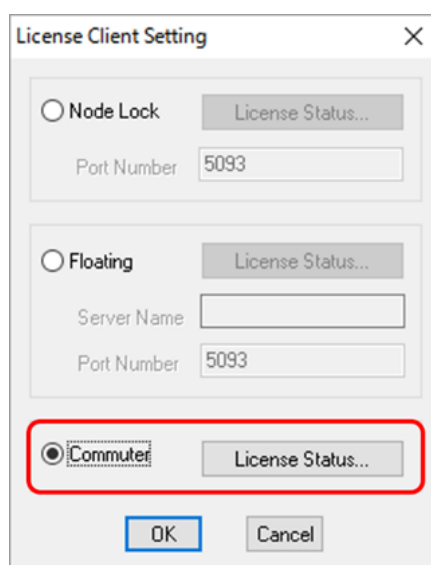


6. ライセンスを持ち出す期間（単位＝日）を入力します。指定できる最長の日数は30日間です。
7. [Check Out]ボタンをクリックします。持ち出しが完了すると、持ち出されたライセンスのアイコンには赤いチェックマークが表示されます。( → )



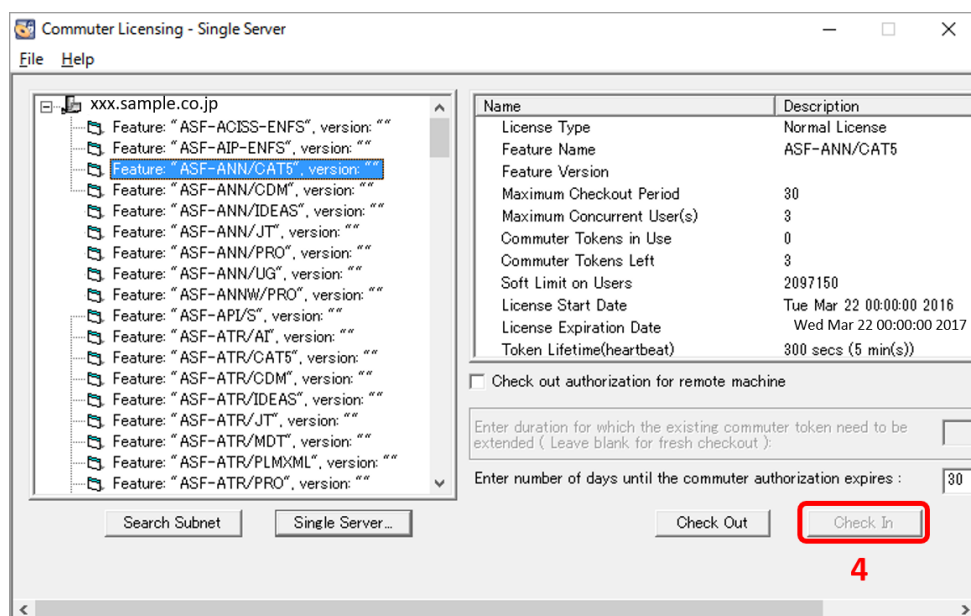
ライセンスサーバーのIPアドレスは、ライセンスを持ち出す際とライセンスを返却する際に同一である必要があります。ライセンスを返却する可能性がある場合にはご注意下さい。例えばDHCPを利用している環境では意図せずIPアドレスが変わる可能性があります。ライセンスサーバーについてはIPアドレスを固定して運用するようにしてください。

- クライアント端末上でコミューターライセンスを指定します。アプリケーション起動時に表示されるライセンス設定ウィンドウで"Commuter"を選択して[OK]をクリックします。アプリケーション起動後に切り替える場合には、"ライセンス設定"メニューから設定します。この場合にはアプリケーションの再起動が必要となります。



4. ライセンスの返却手順

- サーバー端末とクライアント端末がネットワーク接続されていることを確認します。
- license_admin2フォルダーの中にあるWCommute.exeを実行します。
- サーバー端末とクライアント端末を同一のサブネットに接続した場合には、[Search Subnet]ボタンをクリックして、ライセンスサーバーの端末名の下に表示されるライセンス一覧から、返却したいライセンスを選択します。サーバー端末とクライアント端末を異なるサブネットに接続した場合には、[Single Server]ボタンをクリックし、ライセンスサーバーのコンピューター名もしくはIPアドレスを入力します。その上で、端末名の下に表示されるライセンス一覧から返却したいライセンスを選択します。
- [Check In]ボタンをクリックしてライセンスを返却します。なお、「3、[ライセンスの持ち出し手順](#)」の6.で指定した日数を過ぎると、持ち出されたライセンスは自動的に返却されます。



5. Q & A

Q1: ライセンスを持ち出す期間に30日以上を指定できますか？

A1: ライセンス紛失などのリスクを回避するため、ライセンス持ち出しの上限は30日とさせていただきます。申し訳ございませんが変更はできません。

Q2: 持ち出したライセンスが返却できません。

A2: ライセンスの返却は、持ち出した時と全く同じネットワークに接続して行う必要があります。有線LANの場合は持ち出した時と同じLANポート経由で、無線LANの場合は同じ接続先経由で返却するようにしてください。

Q3: ライセンスの持ち出し先が分からなくなった場合、強制的にライセンスを返却することはできますか？

A3: 強制的にライセンスを返却する方法はありません。持ち出し期間を過ぎればライセンスは返却されますので、不測の事態に備えてライセンスを持ち出す期間は最小限にするようにしてください。

Q4: WRCommute.exe使用時、Windows 8.1(日本語版)では"Install Remote Authorization Code"タブの"Install"ボタンが途中で途切れてしまい正常に表示されません。

A4: コマンドライン版のrcommute.exeをご利用ください。

本コンテンツに関わる著作権は株式会社エリジオンもしくは原権利者に帰属しています。
著作権者の承諾なしに無断で改変、複製、転載、再配布、転送、公衆送信、販売、貸与などの
行為をすることは禁じられています。